

新年ご挨拶（平成30年）

一般社団法人 札幌建設業協会 会長 岩田 圭剛

平成30年の年頭に当たり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。平素より当協会の運営に格別のご高配を賜り心より感謝申し上げます。さて昨年を振り返りますと、北海道の景気も順調に回復し、公共投資や予算も上向きの状況が感じられておりますが、建設業が地域の安全・安心を守り、地域経済の一翼を担っていくためには、将来を見通せる公共事業予算を持続的に確保し、安定した経営基盤を築いていくことが何よりも重要でありますので、関係者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

近年、全国各地で大規模な災害が続いており、一昨年に本道を襲った連続台風は記憶に新しく、当協会の会員企業を含め関係者が一丸となって復旧・復興した結果、昨年秋には国道274号線・日勝峠が早期に開通し、建設業がいかに地域にとって重要な、その使命や役割が広く再認識、評価された1年であったと思います。自然災害から、市民の生命や財産を守り、社会経済機能を維持するためには、防災対策とともに減災の視点にたった「まちづくり」を進めていくことが重要です。このため、昨年3月に、札幌市と「大規模災害時における応急対策に関する協定」を締結したところであり、本年も引き続き、北海道の中核機能を有する道央圏の強靱化に向けて、積極的に取り組んで参りたいと考えております。

改正品確法に基づく新指針の効果が現場においても着実に浸透されつつありますが、さらなる発注者責務と生産性の拡大に向けての関連施策の推進について期待致します。

また、我々受注者においても、積雪寒冷地というハンデキャップはありますが、職場環境や労働環境の改善など「働き方改革の実現」に向けて、関係者の協力を得ながら、取組を進めていくとともに、これまで実施してきている高校生や大学生を対象とした現場見学会の開催、新入職員の合同研修・再教育研修など若年者の入職、定着、育成などの担い手対策も取り組んで参ります。

最後に、創立百周年を契機として策定した「行動宣言2016」を会員一同が実践し、「地域を支え、地域と共に栄える建設業」を目指して参りますので、皆様からの変わらぬご支援、ご指導をお願い申し上げます。本年が実り多い1年となりますようご祈念申し上げ、私からの年頭の挨拶とします。